

【実践報告】

教育実習Ⅳ実践報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原豊造

初等教育学科 准教授 黒木晶子

0 はじめに

教育実習Ⅳでは授業観察が主であり、経験豊かな教師による授業を観察することにより、「授業を観察する眼」を養うことが主眼である。また、本実習を控えて「どのような準備が必要であるか」を認識することが目的であり、4年生で実施される実習校における教育実習Ⅴ・Ⅵ（本実習）の準備段階として位置づけられている。観察実習として、広島大学附属中・高等学校（以下、附属中・高）と広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校（以下、附属東雲）での研究大会に参加した。

附属中・高では、研究主題に「次期学習指導要領に向けたアクティブ・ラーニングの展開」を掲げ、今年度はその2年次にあたる。全体講演は、研究課題をより深く掘り下げをめざして、京都大学高等教育研究開発推進センター教授・松下佳代氏による、講演「なぜ『深さ』が重要なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—」であった。

附属東雲は、小・中学校共通研究テーマとして、「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造（3年次）—学びを豊かにする授業の探求—」を掲げている。教育目標としては、「共生社会に生きる主人公として学び育つ子どもを育てる」を掲げ、幅広い分野で精力的に研究活動を推進している。

1 教育実習Ⅳの具体的内容

活動	指導内容
教科別事前指導	実習に臨む心構え・実習校の紹介・研究大会の概要など
観察実習	広島大学附属中・高等学校研究大会参加 10月14日（土） 広島大学附属東雲小・中学校研究大会参加 11月18日（土）
教科別事後指導	教科別に観察した授業を材料に事後指導
各種ガイダンス	本実習に向けての心構え・本実習の準備など

2 広島大学附属中・高等学校研究大会の概要

研究主題 次期学習指導要領に向けたアクティブ・ラーニングの展開

—「見方・考え方」を働かせた「深い学び」を実現する授業の追究—

・英語科 研究主題 アクティブ・ラーニング型英語授業の開発—何を見てどのように考えれば学び

は深まるのか—

公開授業（1限） 久松 功周

外国語科における見方、考え方を働かせた表現力育成の試み（高校2年）

生徒が読み手や目的などを意識して文章を読むことで、読んだ文章について、情報を整理、再構築していくという指導を通じて、表現力の育成を目指していた。

公開授業（2限） 山田 佳代子

テキストとの対話を通じた深い学びの試み（中学1年）

副教材として Pearson Readers を用い、様々な活動を通して、テキストをより深く楽しく学ぶ授業を目指していた。

[講演] 講師 山川 健一 安田女子大学文学部 准教授

[演題] 「英語授業における深い学びについて考える」

英語科教育の立場から「深い学び」とは英語科にとって何を意味するのかを、様々な角度から探る内容であった。

指導助言者 深澤 清治 広島大学大学院教育学研究科 教授

西原 貴之 広島大学大学院教育学研究科 准教授

[全体講演] 講師 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

[演題] なぜ「深さ」が重要なのか—能力・学習・評価のつながりから考える—

新しい学習指導要領では、授業でめざす学びのすがたとして「主体的・対話的で深い学び」が掲げられた。だが、「深い学び」とはどういうことか、どのようにすれば実現できるのか、教育現場には戸惑いも広がっている。

学びに「深さ」が重要なのは、それが、アクティブラーニングが表面的な学習にとどまるのを防ぐだけでなく、＜コンテンツ（内容）とコンピテンシー（能力）＞、＜教科の固有性と教科をこえた汎用性＞といった一見相対立するものを結び付けるかなめになるからである。事実に知識を知っていても、他の文脈や教科に適用することはできない。その背後にある概念や原理にまで掘り下げることで、他の文脈や教科に通じる回路が開かれるのである。そのような「深い学び」がどのくらい実現されたか。それを教師や生徒自身が知るには、評価の方法も工夫する必要があるだろう。（講演骨子より）

3 広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校研究大会の概要

小・中学校共同研究テーマ 「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造（3年次）
—学びを豊かにする授業の探求—

（1）国語

見どころ：ことばと向き合う子どもの姿をご覧ください

校時	校種	学年・組	授業者	単元・教材
1	小	複低	羽場邦子	ことばをたのしもう「ともだちのこと、おしえるよ」（1年） ことばをたのしもう「家ぞくのこと、教えるよ」（2年）
2	小	複中	宮本隆裕	自分の気持ちを詩にしよう
3	小	6の2	谷 栄次	詩を創作しよう「わたし」
4	中	1の1	浜岡恵子	「『詩人の時間』を体験する」—詩の創作を楽しもう—

(2) 外国語活動・英語

見どころ：学びをアクティブにするための取り組みを提案します

校時	校種	学年・組	授業者	単元・教材
1	小	複高	天野純一 井長 洋	君に届け！ We want to tell you.
2	中	2の2	鈴木悦子	考えを伝え合おう
3	中	1の2	井長 洋	思考力・表現力を高めよう

4 観察実習（授業観察）および事前・事後指導

(1) 授業観察の観点についての意見交換

事前指導では、観察実習（授業観察）を行うにあたって、観察のポイントを確認し、学生同士で話し合いを行い、理解を深めた。授業観察のポイントとしては、次の6つの観点が挙げられた。

- ①主体的な活動
- ②双方向性
- ③教師の発問
- ④学修内容
- ⑤教育機器の使用
- ⑥時間配分

事後指導では、事前指導で検討した6つの観点をふまえて、観察した授業について、「よかった点」「改善が望まれる点」を中心に検討し、クラスで意見交換を行った。さらに、意見交換の内容をふまえて、各自、観察した授業について、「よかった点」「改善が望まれる点」をレポートにまとめた。

(2) 授業記録簿を使つての記録

観察実習（授業観察）では、観察する全ての授業について、授業内容をくまなく記録することを課題とした。具体的には、記録用紙（授業記録簿）を学生にあらかじめ配布し、その用紙に記録をとることを課した。

この記録用紙には、「時間」「教師の発問」「生徒の反応」「備考」の4つの欄が設けられている。時間の経過に沿って、教師がどのような発問を行い、それに対して生徒がどのような反応（発話も含めて）を示したかを詳細に記録するというものである。

授業を見学しながら、教師の発問、生徒の反応をできる限り聞いたまま、見たままのとおり記録するということは、実際行うと容易なことではない。そのようなことは難しいと考える学生もいたが、できるだけ忠実に記録をとることを課した。

(3) 今後の課題

秋田喜代美氏は、授業過程の事例分析の方法について次のように述べている。

1～3までの授業の見方が、当該授業と他の授業との比較であつたり、授業の展開や要素についての外在的な基準を設けてとらえる見方であるのに対して、1時間の授業、あるいは一つの単元の授業過程自体を時間の流れとともに内在的に分析し解釈しようとする授業の見方もある。またさら

にはひとりの子どもの経験、ひとりの教師の経験をとらえて解釈をしていくことによって、その授業を経験した者の内側に寄り添ってみようとする見方もある。(秋田 2006, p.17)

秋田氏は、ここで言及している4つの分析方法のうち後半2つの方法は、「ミクロに授業の具体的な流れに沿ってより詳細にことばや行為をとらえようとする方法」であり、「この丁寧な見方のなかで、子どもたちにとっての授業における経験の質も見えてくる」とし、数量的な分析では見えてこない部分を読み取ることができると指摘している(同上, p.18)。

事前・事後指導で行った、クラスでの授業観察の観点をふまえた討論と、授業記録簿をつけることによる観察実習(授業観察)は、これら4つの授業過程の事例分析の方法を、不十分ながらも実践しようとしたものである。

今後は、これらの方法をとることにより、観察した授業事例の理解をより深めること、さらに、学生による授業分析の実態を明らかにすることを行っていきたい。

【参考文献】

秋田喜代美(2006)『改訂版 授業研究と談話分析』(放送大学教材), 財団法人 放送大学教育振興会